



異なる文化との出会いや保護者・地域のみなさまの支え

校長 五十嵐 俊子

先月の27日、ブラジルから、学習指導要領を作成している教育財団の代表者2名の訪問を受けました。これからの時代を切り拓く高校領域の新しい学び、授業研究、ICT活用、STEM教育（科学・技術・工学・数学の教育分野を総称）に関心をもたれ、日本の最先端の高等学校を複数訪問する目的で来日したそうです。教育の基盤である義務教育（初等教育）の現場もぜひ視察したいということで依頼を受けました。（左下5つの画像です）

本校の子供たちが学ぶ様子をご覧になり、次のような点で驚いたという感想をいただきました。先生や友達の話をしっかり聞いて学びのマナーがしっかりしていること、集中力が高く学ぶ意欲が高いこと、学習活動のプロセスを子供たちがしっかり理解していること、授業前後（休み時間）の子供たちの屈託のない笑顔や挨拶のおもてなしがとてもうれしかったこと、先生と子供たちの温かさを感じたこと等です。チームまちごが、子供たちの成長のために日々大切にしていることを感想として話してくださり、うれしく思いました。今後、ブラジルでも、日本でいう学習指導要領（スタンダードとなる国の教育の基準）を作成し、どの子供にも一定水準の教育を保証して格差をなくし、国を挙げて世界で活躍できるクリエイティブな人材を育成していくとのことでした。

授業を見ていただいた後、これからの教育についてディスカッションしました。他国から見ると、日本の教育は、すべてに完璧を求める教育、正解を求める教育、画一的な教育といったイメージが強いようでした。確かに、今まではそうだったと思います。しかし、2020年度から完全実施される新しい学習指導要領は、まさに、自分で考え、主体性をもって多様な人々と協働して学んでいける力を付けることを目指しています。短時間で「正解」を選び出す力も大切ですが、何か問題が起きたとき、知恵を絞って解決策を考え、人を集めて解決に尽力できる力も大切です。特に大災害時には必要な力となります。今回の訪問で、一瞬で情報が地球の裏側まで届くこれからの時代に求められるのは、多様性への対応だということを改めて実感しました。画一的なものごとをとらえ、狭い社会の規範や前例だけで判断しては、思考の広がりはありません。画一的から脱するためには、主体性に加えて、多様な人々と学び合う環境が大切になるのだと思いました。

現在、本校では、子供たちの主体性や判断力を行動に移せるように、日常の学校生活全般において、「よく見て聞いて考えて行動する」ことを重点化しています。これは、安全な登下校時の行動にもつながります。また、学習においては、国語を中心に、「対話」で学びを深める学びの環境について研究しています。授業の中で対話の場面を多く取り入れ、互いの考えを伝え合うことで子どもたちの心を広く豊かにし、柔軟な判断力を育てていきたいと思っています。新しい学びの場をどのようにつくっていくか、チームまちごの教員は、今、熱心に勉強しているところです。

子供たちの成長のために、今後も、保護者の方や地域の方と力を合わせていきたいと思っています。保護者のみなさまには、1学期もたくさんの場面で大きな力をいただきました。先月のブロック保護者会でも、多くのご出席をいただき、子供たちの安全を守るための当番活動について熱心に話し合ってくださいました。また、毎年3年生で行っている自転車安全教室も、子供たちの自転車運転実習の指導者として、たくさんの保護者の方に協力いただきました。市民生活安全課と町田警察署の方からは、「これだけ多くの保護者のみなさんの応援をいただける学校はあまりありません。すばらしいですね。」とお褒めのお言葉をいただき、とてもうれしく思いました。みなさま、本当にありがとうございます。（右下の画像です）

これからの学校は、今回のブラジルからの訪問で刺激を受けたように、多様な文化とのふれあいや、保護者・地域のみなさまからの支えが、とても重要になります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

